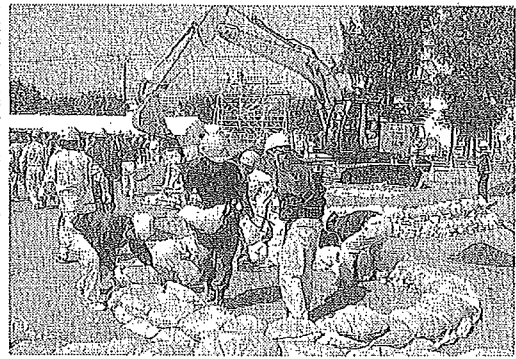


実践的訓練で有事に備え 宮坂建設工業が防災訓練



【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は25日、帯広中央公園などで防災訓練をした。実践的訓練で有事に備えたほか、各種の展示やイベントを通じて市民に防災意識の向上を呼び掛けた。

1993年から毎年実施。2003年の十勝沖地震以降は市民参加の公開訓練としている。この日は、午前9時に

本番さながらの緊迫感の中で行われた水防訓練。震度5強の地震が発生したとの想定でスタート。河川や建築物に赴いたパトロール員と、社内設置した対策本部が、情報伝達の手順を確認した。

この後、帯広中央公園での公開訓練に移行した。堤防が決壊したと仮定しての水防訓練では、職員や協力業者が土のう積みや大型土のうの製作・設置、釜揚げなどの作業を手際よく進めた。同社社員や関係官庁の担当者のほか、地元小学生や帯広工高生、帯広農高生、地域住民ら多くの市民が来場。訓練の様子が双腕式油圧ショベルのデモンストレーションなどを見守った。

併せて大地震の疑似体験会、児童や学生らを対象にした土のうづくりの指導も実施。炊き出し訓練で作った豚汁を来場者にも振る舞った。

川端小児童ら 招き防災訓練

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）札幌支店は24日、札幌開建から請け負った道央注水川端トンネル現場（由仁町）で、いざというときの有事に備えて防災訓練を実施した。ま



救命応急処置訓練では、地域住民も一緒に「心臓蘇生（せせい）法を試みた」写真。

訓練に招待された川端小の中井清一校長は「児童の防災意識を高める意味でも、とても役に立った」と同社の取り組みを高く評価していた。

た、地域住民を招待してAED（自動体外式除細動器）などを使った救命方法も学んだ。地域全体で防災危機意識を所有すべきとの観点から、地域住民や由仁町川端小児童8人を招き、総勢50人で訓練に励んだ。午前は同社社員限定による地震災害を想定した現場の安全点検と地域住民を交えた救命応急処置訓練、午後は小学生の重機試乗体験会などを行った。南空知消防組合由仁支署の職員が講師を務めた。